

項	重点目標 (取組)	取組状況・成果・課題	評	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
一人一人の自立に向けた力を伸ばす	身近な自然とのかかわり	・四季を通して裏山の「日歩が丘」や近隣散策に出かけ、友達と一緒に自然にふれあったり、遊んだりした。 ・地域の方にツバメの巣作りや子育ての様子を見せてもらったことが貴重な体験となった。 ・田んぼ作りや米作り挑戦し、地域の方の協力で脱穀と精米し、収穫した米を食べたことは食についての興味や関心につながった。	A	・身近な自然とふれあったり、楽しんだりしたことを日々の保育の中にどのように生かしていくのか、研修を重ね、保育計画に取り入れていく必要がある。 ・山の管理など、職員だけでは難しい。地域の方や保護者の力を借りることも考えていく必要がある。	・広い園庭、及び、自然に恵まれた長尾町の地域性や伝統文化にふれる機会などを生かし、幼児が伸び伸びと自分の力を発揮できるような保育を目指してほしい ・幼児の明るい元気な姿こそが、地域の活性化につながる。今後もいろいろな場で交流できるとよい。
	様々な人とのかかわり	・地域の方に四季折々の作物や生き物、草花などを身近に見せてもらったり、収穫体験をさせてもらったりすることで、感謝の気持ちをもつことができ、より身近にかかわることができるようになっていく。 ・サッカーやラグビー教室を経験することで、友達と一緒に体を動かす楽しさにつながった。 ・大沢幼稚園や末就園児と毎月かかわることで、いろいろな友達と一緒に遊ぶ楽しさや、優しくかかわろうとする気持ちが育っている。	A	・来園してくださる方々への親しみの気持ちは育ってきており、毎回の交流を楽しみ姿が見られるようになっていく。挨拶を交わしたり、言葉をかけたりするなどの積極的な姿へつながるよう、日々の細やかな支援が必要である。	
	表現活動の充実	・いろいろな場面で感動体験を重ねた共通の思いがあることで、造形活動や身体表現、リズム表現につながった。また、生活発表会では、それぞれの思いを言葉で表現することを楽しみ、自信へとつながった。	A	・友達と共有した体験の楽しさや喜びなどを日々の保育に生かしていくことができるように、一人一人の思いに気付く読み取りが必要である。	
教職員・学校の魅力と実力を磨き高める	資質向上	・園内研修の機会をもち、互いの保育について読み取ったことや今後の保育にどのようにつなげていくかを活発に話し合った。	A	・研修で学んだことを意識し、刺激し合い、互いを高め合える職員組織づくりに努めていきたい。	・公立幼稚園が存続していくためには、教職員の研修の積み重ねが欠かせない。公立幼稚園のよさや特色をアピールするための手段の工夫が必要である ・新聞や地域の広報誌などマスコミを利用することで幼稚園のよさや特色をアピールできる。 ・幼稚園の送迎を含め、幼少期からの自転車に乗る際のヘルメット着用について習慣付けることが大切である。 ・送迎の時の自動車の利用についてルールを守り、安全を意識してほしい。
	施設設備の安全点検・管理	・幼児の生活する場の安全について職員間で意識し、門扉の施錠については、すぐに対応し改善した。運動場については、児童館の先生方の力を借りながら、土が流出した部分や地割れした箇所など、幼児が力いっぱい安全に運動できるようにできるだけ修復した。 ・避難訓練は地域の方にも参加していただき、幼児が命の大切さに気付き、咄嗟に自分の身を守る行動がとれるように継続して月に1回実施した。	A	・運動場は雨水の通り道が溝状になったり、土が駐車場に流れ込んだりする状態である。今後も改善、補修が必要である。 ・訓練は計画した日以外にも実施するなど、咄嗟な時に対応できる職員の連携が必要である。	
	幼稚園教育の情報発信	・園日よりその他の配布物、保護者会などの機会を通して、幼児の育ちや教師の保育のねらい、願いなどを日々の生活や遊びの様子から、分かりやすくポイントを絞って伝える。 ・HPでは日々の幼稚園生活を通して幼児の育ちや学びが伝わるように写真やつづきなどの表し方を工夫し、更新を心がけた。	A	・HPや園日りの作成については、見る、または読む側の目線に立って分かりやすく伝えていくことが大切である。職員研修の1つとして今後も取組みたい。	
特色ある神戸の教育を更に発展させる	絵本とのふれあい	・保護者による絵本の読み聞かせやボランティアによる大型紙芝居や昔話の読み語りなどが、絵本やお話の世界により心を寄せる機会となった。これからも継続していきたい。	A	・自然、童話、昔話、紙芝居など、幼児の興味や関心が広がるような絵本や紙芝居にふれる機会につながるよう、新刊も含めた絵本や図鑑を増やしていく。	・長尾幼稚園の子供たちは、日々、裏山の日歩が丘に親しみ、心も体も動かして遊んでいる。昔からあるこの豊かな環境の中での活動を今後も継続できるように、地域の力を借り、より活動を充実させたり、安全を確保したりすることが大切である。
	3年保育の環境を生かす	・3歳児と5歳児が同じ階で生活することで、3歳児にとって、5歳児の遊びが刺激となって興味や関心を広げるきっかけとなったり、安心して日々の幼稚園生活を送ることができたりしている。また、4歳児は3年保育を経験した幼児が半数以上在籍していることから、互いに刺激を受けながら遊びがより活発になっている。 ・5歳児は3年間の経験を生活の中に存分に生かすことを楽しんでいる。子供たちの思いを生かすための環境の工夫が必要である。	B	・3年保育を経験している4歳児と初めて入園して生活する4歳児の育ちを細やかに分析しながら、それぞれをどのように支援していくのか、集団としての育ちをどう支えるかなど、教師間で共有理解していく。	
市民が自ら学ぶ子供の育ちを共に支える	保護者との連携	・降園時や保護者会などを通して、幼児の姿や教師の願いなどを分かりやすく伝える。保護者会への出席数の減少が課題である。 ・登降園時の情報交換や通園ノートを活用して保護者の思いを受け止めるなど、信頼関係の構築に努めた。	B	・幼稚園の教育理解と協力を得ながら保育がすすめられるように、幼児の幼稚園生活における学びや育ちについて細やかにかつ丁寧伝え、信頼関係の構築を心掛けていく。	・若い世代の保護者が増えると共に、新興住宅地からの幼児がほとんどを占めている現状である。長尾地域のよさを分かって長尾幼稚園を選び、通園している方も多いため、長尾幼稚園の素晴らしさ、公立幼稚園のよさを伝えてもらえるように連携を図っていくことが大切である。 ・公立幼稚園も保護者のライフスタイルの多様化に合わせた対応が必要である。
	地域との連携	・地域の方から声をかけてくださる交流には、積極的に参加し、ふれあいを楽しんだ。お礼の手紙を書いたり、再度訪問させていただいたりしながら、親交を深め、気軽に話しかけることができるような関係づくりにつながっている。 ・避難訓練や昔遊びで交流しながら、地域の方の見守りの元で安心して生活できていることに感謝の気持ちをもつことができた。	A	・幼稚園の実態や取組みについて伝えていくことで、協力や理解を得られるようにし、共に幼児を育て見守り、励ましていただけるような信頼関係を築いていく。	

\*セルの数や大きさは、変えていただいてもかまいません。